

## 歯学部学生の様子

歯学科1年 小林 理 玖

私が新潟大学に入学してからおよそ一年が経ちました。今年は初めて経験することが多く、短いようで長かった一年でした。私が新潟大学歯学部に入ることが決まってからは新しく始まる生活に期待が膨らみました。まだ、新型コロナウイルスの影響もあり、非対面型の授業が多くありました。自分から話しかけることが苦手な私にとっては友達ができるかどうか不安しかなかったのですが、部活動と毎週金曜日に旭町キャンパスで行われる対面型の授業を通して友達を作ることができました。

私は現在、サッカー部と管弦楽団の2つの部活に所属しています。サッカー部は新潟大学に入学する前から入ろうと思っていました。サッカー部の部員数が少なかったということもあり、非常に歓迎されたことはとてもいい思い出です。高校の頃はサッカー部に所属していなかったのが最初は blank を感じていましたが、様々な学年の先輩と関わりながらサッカーを楽しむことができます。大学の授業に慣れ始めた7月頃は時間的に余裕ができたのもう一つ部活に入ろうと思いました。私は小学生の頃からヴァイオリンを習っていたので管弦楽団に入ることにしました。私は、ソロでしか弾いたことがなかったので、オーケストラで周りの音を聞きながら自分の音と調和させて弾くことが非常に難しいです。まだまだ技術的に至らない部分が多いのでたくさん練習する必要がありますが、全員の音がそろった時の快感を糧

に楽しく勤しんでいます。

新潟大学に入学にするまでは自分でお金を稼ぐということをしたことがなかったので、アルバイトで給料をもらうということが大学生になってやりたいことのひとつでした。10月頃にサッカー部の先輩から紹介を受けて念願のアルバイトを始めました。最初は覚えるべきことがたくさんあり、社員さんに注意されることも多かったのですが、経験として学んだことも多くありました。例えば、私は居酒屋で働いているのですが、接客や電話対応など自分の行動一つ一つが店の印象に繋がるので、責任が伴います。よって、様々なことに気を配りながら丁寧に仕事をこなさなければなりません。このような経験は将来、歯科医師として働く上で、必要不可欠であると思うのでこれからも真面目に取り組んでいこうと思いました。

先輩方からよく「遊ぶなら1年生のうちだよ」と言われます。確かに、2年生以降は本格的に医療関係の授業が始まり、ほとんどが対面授業になります。アルバイトをたくさん入れて多くのお金を稼ぐこともとてもいい経験であると思いますが、1年生の時は友達と旅行に行ったりして多くの思い出を作り、2年生からの忙しい日々のために英気を養うことが大切であると思います。歯学部は6年間という長い道のりです。1年生で経験したこと、学んだことを生かしながら新しくできた仲間とともに様々な壁を乗り越えていきたいと思っています。

# 歯学部学生の様子

歯学科1年 宗田 菜穂子

早くも、入学して半年以上が経ってしまいました。気づけばもう2022年が終わってしまいます。ついこの間入学したばかりと書いていたのですが時の流れはとて速く感じます。1年生全体のことはよく分からないので私や私の周りの様子を書きたいと思います。私が入学した2022年は新型コロナウイルスの流行から約3年が経った頃です。入学式も今年は3年ぶりに開催され、徐々にコロナウイルスによる規制が解かれ始めてきました。しかし、コロナ対策は引き続き行っていくには変わりはありませんでした。前期の早期臨床実習は今年も病院へは入れず、先生たちがスライドを使って丁寧に各専門診療科の概要を説明してくださいました。新入生研修も今年は延期となりました。また、前期では他の教養科目等もほとんどがオンライン授業となり、まだコロナ感染の影響は大きいと感じられました。大学の授業を履修したり、オンラインで授業を受けたりと私にとって初めてのことで戸惑っていたけれど、友達に助けられながら乗り越えることができました。後期に入ると対面授業も徐々に再開され、五十嵐キャンパスで講義を受講することも増えてきました。講義室に大勢で様々な学部の学生が一つの講

義を受けるといことができるようになり、総合大学である新潟大学に入学したという確かな感覚を得ることができました。私は少人数の講義も受講しているのですが、そこで直に他の学部や学年の人と意見を交換でき、またとない機会を得てうれしい気持ちになりました。

学業以外では部活に所属し、新たな出会いがありました。先輩や同級生にとっても良くしてもらって楽しい日々を過ごしています。高校までの友人と違い、様々な地域の出身者がいて色々な地域の話聞くようになりました。私は新潟が地元なのですが県外の同級生や先輩に新潟の印象を聞くと「風が強い」とか「折り畳み傘を手放せなくなった」、「新潟に来てから天気予報を信じなくなった」と異口同音に天気の悪さを口にします。確かに新潟の天気は変わりやすく崩れやすいものです。このように天気のこと一つとっても当たり前だと思っていたことがそうではないと気づかされるが多々あります。

最後に、来年度はいよいよ専門科目の講義を受けることとなります。今はまだ来年度のことは想像が付きませんが、気負わずに一つ一つ丁寧に取り組みたいです。

# 歯学部 2 年生の様子

歯学科 2 年 田 中 佑 樹

1 年前の自分に今の自分の生活を見せたらきっと忙しさに驚くに違いない。2 年生になって生活が180度変わったといっても過言ではないからだ。

私が 1 年生の時の生活というものは、本当に墮落した生活になってしまっていた。全休の日は昼過ぎに起きて特に何をするわけでもなく時間が過ぎ、夜遅くまでスマホをいじっていた記憶がある。

それが 2 年生になった 4 月以降、1 限対面から始まり 4 限までみっちり授業という生活が始まった。私は実家暮らしであり、旭町まで 1 時間以上かけて登校している。この文章を執筆している 11 月も、苦手な朝にしっかりと苦しめられている。しかし、学校に行けばそこには同級生が集い、講義や休み時間があるというような、私が高校生だったコロナ禍以前の当たり前前の生活があった。旭町での大学生活に 2 年生ながらわくわくした。

7 月も終わり、夏休みに入ったが、1 か月間にわたる前期期末テストが約 30 日後に迫っていた。しかし昔から家で全く集中することができない私は勉強に身がなかなか入らず、危機感だけが募っていった。そこで、大学の図書館を利用し、無理矢理そこに自分を拘束することに決めた。するとそこには同じ歯学部 2 年の友人がたくさんいた。その友人たちとわからないところを教えあい、理解度がどんどん深まっていった。朝から夜まで図書館にいるサイクルを夏休み中は毎日続けたが、これが続けられた理由もやはり友人たちの存在が大きかった。夏休みが終わった後も図書館はまず

まず熱気を帯びていき、2 年生の数は増えていった。みんな自分なりの勉強法を持っており、その意識の高さに目を見張った。定期試験対策とは比にならない大変さが予想される国家試験の勉強。その大変さ、苦しさは 2 年生の私にとってはまだ想像もできない。しかしこの同級生たちと一緒に国家試験に挑めば、何も怖いものはないとこの時思った。

もがきつつなんとか試験期間を乗り越え、10 月になった。少しは暇になるかな?と思いきや、テストや実習等のレポートに追われてそんなことはなかった。しかしグループワークが増えたことで一層同級生間の交流が盛んになったような気がする。私もあまり話したことのなかった同級生と話す機会が増えてとても嬉しかった。

11 月。私たちの学年は、部活では幹部としてまとめしていく立場になっていく。数々の部活で代替わりが行われ、私は軽音楽部の副部長として 1 年間頑張ることになった。正直人の前に出ていくようなタイプではない私に務まるのかは不安であるものの、大好きな音楽を不自由なくでき、みんなとライブを楽しめるという幸せを噛みしめながらやっていきたい。

3 年生以降はより専門性が高まり、歯科医師になる自覚が強く芽生えていくと思う。どんな時でも「良い歯科医師になる」という軸がぶれることなく、そして不自由なくこの新潟大学歯学部に通えるということに感謝しながら毎日を過ごしていきたい。

# 歯学部学生の様子

歯学科2年 高橋 まりあ

2年前期の対面での基礎系専門科目の期末試験が終わり、早くも2ヶ月が過ぎました。前期期末試験は1年次に比べて試験教科数も多く、1つ1つのテストの難易度も高いため、いかに日々の予習復習が大切か思い知らされました。

前期期末試験も無事終え、10月から始まった後期の授業では前期と比べ、実習が増えたことが何よりも大きな変化であったと思います。実習では毎回実験レポートが課されるだけでなく、前期の授業内容をしっかりと理解していなければならないものもあります。あまり専門系のレポートを書き慣れていない、前期の授業の理解に穴が空いているため、日々の学習に凄く時間が掛かってしまっているのが現状です。ですが、実習を通し、学習した内容を自分の手で実験し、結果を考察することができるため、知識の定着、理解の向上に繋がっていると思います。また、グループでの活動により、今まであまり関わらなかった人たちとのコミュニケーションが増えました。様々な人とのコミュニケーションの中で、自分が間違えて理解している部分があることや他にもこんな実験考察があるのだと気づくことができました。多くの人と積極的にコミュニケーションを図り、お互いに高め合う学科の同期をこれからも大切にしていきたいです。さらに3年生になると歯科の分野に特化し、内容も難しくなっていくと思うので2年の授業内容しっかり復習し、3年を迎えたいです。

また、私事ではありますが現在医学部の方の空手道部の副部長をしています。2年生になり学業も大変になってきた中で部活を引っ張らなければ

ならないプレッシャーは自分の中で大きかったのですが、同期や後輩、先輩にもアドバイスを頂きながら良い雰囲気作りができています。

他にも今年10月に「にいがた観光親善大使」に就任したことが今年度印象に残っています。主にInstagramやFacebookなどのSNS、県内外のイベントに出席し、新潟市や県の観光PRを行なっています。そもそも歯科医師として、育った新潟で働きたい私にとって大使の活動は、多方面から新潟について学ぶチャンスであり、将来のキャリアにもつながると思い応募しました。大使の活動の中で、普段なら関わることのできない職種の方や人生経験の豊富な大人と関わることは同年代の子たちとは違った貴重な経験ができています。任期の1年間、学業や部活動と両立させながら引き続き頑張ります。

新型コロナウイルスの影響で思い描いていた学生生活を送れていないかもしれませんが、学生生活の1日1日を大切に、最大限楽しみたいです。



部活動時の様子

# 異色な歯学部 3 年の様子

歯学科 3 年 西村 隆之

歯学部ニュースをご覧のみなさん、こんにちは。歯学科 3 年生の西村と申します。歯学部ニュースの記事を寄稿いたしますのははじめてですが、駄文にお付き合いください。入学してから 3 年経過したのにもかかわらず、恥ずかしながら歯学部ニュースを目にしたのが寄稿のこの機会が初めてになります。なにを書こうかと考えまして、ネットに公開されています平成 7 年度から歯学部ニュースを拝見しました。すると、私も知っている先生方が学生の頃に寄稿されたものが出てきて…その先生方の学生の頃も苦労されていたのだなと知ると、やっとこさ 3 年後期からはじまりました実習を四苦八苦している現状はだれしも通るのだなと知りました。落ち込まずに気合で、乗り切っていくぞ！

さてこれから、本題の 3 年の学生生活の様子について書きたいと思います。といっても、私は部活に入り居酒屋でバイトする“The大学生活”を謳歌しているわけではありません。では、西村君は普段なにをしているの？ひまなのか？—いいえ、研究室におります。2 年生になり専門科目が対面講義で始まり、難しいけれども意外におもしろいなと思っていたところに人体発生学を教鞭されている口腔解剖学分野の大峽淳教授から研究室の手伝いしてくれる人を募集していると情報があつたので、メールを送らせて頂きました。

当時、入試が物理選択で、生物がさっぱりな私でしたが教授や川崎先生から実験手法や考え方など教えていただき、遺伝子改変マウスにおいて引き起こる異常の形態学的な解析から、改変した遺伝子の各器官の発生メカニズムを探るプロジェクトの一つを進めています。

人の遺伝子を 1 から作ると、普通に考えて胎児のときにしっぽや水かきが存在するはずがなく元から手を作ればよい。しかし、胎生期にそれらは

存在しわざわざアポトーシスでなくなる。別の例で有名なものでは、人が猿だったころの名残である長掌筋、ダーウィン結節や歯科では親知らずがない人がいる（私ですが）。今はあまり使わないから、なくなった人もいるといわれています。そもそも必要ないものをはじめから作る必要はないとおもいますが、ある人やない人がいるということは私たち人類も進化の中にあると実感できます。遺伝子変化によって浮かび上がってきた現象を知ることは、マスクの下にかくれている進化を垣間見る、そんな活動です。発生学じゃなくても良いでしょう。もし、後輩でちょっとでもこの授業はおもしろそうだなとおもったらメールを先生方に送ってみてください。大峽教授だけでなく、どの先生方も歓迎してくださるとおもいます。

最後に、私は関西出身でありあまり雪に慣れていません。この文章を書いている日に初雪でした。1 年生では、新潟にいなかったため未だ新潟の冬に慣れていないわけではありません。積雪すると、毎日登校が大変だと思いますがこの中を登校されてきた先輩方を尊敬します。実習と気候に慣れるために気力と気合で乗り切ろうと思います。先生方、先輩にはご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



研究室にて

# 歯学部学生の様子

歯学科3年 清水香奈

私は約2年前にも「入学者のことば」でこの歯学部ニュースを執筆させていただきました。当時は新型コロナウイルスによる影響が一番大きな時期であったため、同級生に会える機会もほとんどなく、自分自身が大学生になったという実感があまりありませんでした。しかし、約2年の月日を経てやっとすべての科目が対面授業となり、「普通に大学に通えること」のありがたみを日々感じつつ、楽しく充実したキャンパスライフを送れています。

さて、私は3年生となり今まで様々な実習を行ってきました。中でも特に印象深いのが、3年前期に行った解剖実習です。私は入学当初から、限られた人しか経験することのできない非常に貴重な経験である解剖実習を楽しみにしていました。実際に人間の体の中の構造を目にすることができるということに興味津々でした。しかし、一番最初の実習でご献体と向き合った瞬間、何よりもまず初めに感じたのは「恐怖」でした。私は幼少期、親戚のお葬式などに参列した際も「亡くなった人の姿」を見るのが怖く、目を背けてまともにお参りができないほどでした。そんな私が急にご献体を目の前にして、このような感情を抱くことも無理はありませんでした。しかし、恐怖は最初だけであり、徐々に解剖させていただくというご遺体に対する感謝や、もっと学びたいという興味や意欲の方が大きくなっていきました。辛い思いもたくさんしましたが、班員とともに解剖

実習を乗り越えることができました。この実習を通して解剖学の知識だけでなく、班員で協力して一つ一つのタスクに取り組むことの大切さなどを学び、人間的にも大きく成長することができました。これは、将来歯科医師を目指す私たちにとって大きな糧となりました。

今までの授業は生化学、生理学などの基礎科目が中心で、全身のメカニズムなどを学んできました。しかし、後期からは歯冠修復学の実習などの、より臨床に近い授業が増え、非常に難しさを感じるとともにいよいよ歯科医師になるのだなと身の引き締まる思いでもあります。慣れないことばかりですが、何事も一朝一夕にできるようにはなりません。めげることなく、日々やりがいを感じながら実習に臨んでいます。長いと思っていた6年間の学生生活も、気づけばもうすぐ折り返し地点です。今後さらに自分に磨きをかけて精進していきます。



解剖実習の班員と

# 歯学部生の今

歯学科4年 芦原郁也

私は2019年度に推薦入試で入学し、それからはや4年が経過しようとしている。これまでの4年間を振り返ると、本当にたくさんの経験をしたと感じる。

まずは入学して、それまでとは大きく変化した環境に慣れるのに必死だった1年生の春が思い浮かぶ。一人暮らしを始め、授業の時間割も全て自分で作成するなど、それまでには全く経験したことのない数々のことをこなすことに大きく不安を抱えていたが、それを解決してくれたのは友人たちの助けである。入学後すぐに友人たちは親切に接してくれた。日々を過ごすうちに絆が深まり、今となっては欠かせない存在である。そんな友人たちと自由な生活を謳歌したことが強く記憶に残っている。

そして2年に上がると、ここで新型コロナウイルスの影響が生活に響き始める。授業は全てオンライン化し、外出の自粛に部活動の停止と学生生活のほとんどを奪われてしまった。毎日を自宅で過ごし、友人と飲み会も開けず鬱々とした日々を送っていた。しかしその中でも授業の内容は基礎

系の科目が始まり、徐々に歯学生であることを実感できるようになっていた。そして軽音楽部である私は趣味が楽器の演奏ということもあり、自宅での時間を楽器の練習にあて、自分の時間を充実したものにできた。

3年では基礎系の科目に加えて、いよいよ臨床的な内容が始まりさらに歯学生としての自覚が大きくなった。模型とはいえ、初めて歯を削るという行為にこれから伴う大きな責任を感じたことを記憶している。

そして現在4年では来年に控えたCBTに向け勉強への意識が変わったように思う。毎日の実習や授業への身の入り方がより一層集中しているように感じる。これまでに学習した様々な知識が点と点で繋がる感覚も芽生え始め、自分のこれまでに積み重ねた知識を統合的に使うことへの喜びを感じるようになった。

この先CBTや臨床実習、国試などいよいよ歯学生生活の締めくくりに向かっていくが、自分の描く歯科医師像に近づけるようにこの先も努力を怠らず、日々一歩ずつ成長していきたい。



歯学部同窓会50周年記念式典での様子

# 歯学部学生の様子

歯学科4年 小杉沙綺

歯学部に入学してから3年が経った。気がつけば学年は4年に上がり、歯学部での学生生活も折り返しに突入した。それに伴い、学習内容も基礎的なものから臨床に近いものとなり、さらに座学の講義よりも実習の時間が多くなった。実習では知識に加えて技術的なスキルの獲得も求められるので、ただ教科書やレジュメをみて勉強すればよかった今までの学生生活とのギャップを感じ、悪戦苦闘の日々である。

さて、4年後期の時間割には週5日中4日で実習が組み込まれている。毎回、実習の前には予習が必須である。予習では、ただ実習書を読むだけでなく、先生方が用意して下さった動画を繰り返し見て、その日の実習では何をどのようにやるのか、この治療・技工操作では何がポイントなのかなどを把握してから臨む。実習書や動画をみて不明点や疑問点があるときや手技のイメージが持てなかったときは、友人同士で事前に相談し合い、なるべく理解を深めたうえで実習に臨もうとしている。全ての実習に対してこのように準備をして臨むのは大変だが、同級生が自分よりも念入りに予習・準備している姿勢に感化され、頑張ることができている。

しかし、自分なりにしっかり準備して臨んでも、実際は上手くいかないことばかりである。特に私は支台歯形成やう蝕の治療など口腔内での切

削操作が苦手である。ファントムにつけて口腔内で形成し、いざファントムから模型を外して口腔外で見てみたら、自分の思い描いていた理想の形態とは程遠いものができてしまっているなんてことも多い。そんな「失敗作」の人工歯が私の技工箱には沢山入っている。しかしこれはゴミではなく、自分のステップアップのためには必要なものであると考えている。なぜなら、形成した歯を先生方に見せると、自分では気づくことのできない癖を気づかせてくださり、同じ失敗を繰り返さないためにはどうすれば良いかアドバイスをくださるからだ。おかげで、支台歯形成・TEC製作・印象操作・模型製作など複数回やってきた手技は1年前と比べて、少しは上達したな、失敗する回数が減ったなと感じることも増えてきた。やらなければならないこと、できるようにならないことが多く、大変なことも多い実習だが、これからも友人同士で相談し励まし合ったり、また先生方のご指導も頂きながら、よい歯科医師に必要なスキルを獲得するために日々精進していきたい。

また、4年生の直近の目標としては来年夏のCBTやOSCEである。まだまだ先のことと思っていた臨床実習がもう1年後に迫ってきている。合格にむけて、同級生と切磋琢磨しながら努力していきたい。

# 歯学部生の様子

歯学科5年 小泉 瑠 果

こんにちは！歯学部歯学科5年生の小泉瑠果です。今回で歯学部ニュースを執筆させていただくのは2回目となりますが、前回歯学部ニュースを執筆させていただいた時（歯学科2年生次）は、歯について全くといってよいほど無知でありました。しかし、時が過ぎるのは早いもので、あっという間に5年生となり、まだまだ未熟ではありませんが、緑衣を着て臨床実習に精一杯取り組んでいます。「歯学部生の様子」ということで、私が5年生次に印象に残っていること・精一杯取り組んでいることについて2点書かせていただきたいと思います。

1点目は部活動です。私は弓道部に入部してから5年目になります。今年度の8月、3年ぶりにデンタル弓道部門が行われました。コロナ禍ということでオンラインでの大会開催となりましたが、様々な大学の方々と弓道を通しての交流を久しぶりに行うことができました。また、団体戦総合優勝を獲得することができ、忘れられない思い出の1ページとなりました。

2点目は臨床実習です。5年生の7月末にCBT、9月末にOSCEを無事に終え、10月中旬より本格的に臨床実習が始まりました。まだ臨床実習を振り返られるほどの余裕もなく診療のたびに自分の未熟さ・不甲斐なさ・歯痒さを痛感させられます。臨床実習が始まって2か月間このようなことばかりですが、臨床に携わる歯科医師として大きな一歩目を踏み出すために、できるだけ積極的に多くの症例を経験していこうと思います。また、臨床実習を通して歯科医師としての基礎を形成することはもちろん、社会人、医療人としての第一歩を踏み出し、歯科医師としてのprofessionalismを獲得できるように努めていきます。そして、臨床実習にご協力下さる患者さんはもちろん、熱心に指導をして下さる先生方、診療準備や診療器具の場所など分からないことを丁寧に教えて下さる歯科衛生士の方々、清掃業者の方々など多くの関係者によって支えられていることを十分肝に銘じ、感謝を忘れずに臨床実習を駆け抜けていこうと思います。



登院式で 友人との1枚 撮影時マスクを外しました

# 歯学部学生の様子

歯学科5年 大出 怜子

新潟へやってきて早4年、私の地元である北海道に比べて雪は少ないものの、想像以上の雨の日の多さに驚きはありましたが、そんな新潟での生活にもすっかり慣れてきました。今回このような貴重な機会を頂きましたので、5年生の生活を振り返ってみたいと思います。

5年前期のカリキュラムは4年生までの講義や実習とは異なり、今私たちが取り組んでいる臨床実習を意識したものとなっています。中でも総合模型実習と臨床予備実習（ポリクリ）が主要な科目でした。

総合模型実習は、様々な疾患が設定されている上下顎の模型に対して問題点を見つけ出し、治療計画を立て、治療していくという実習です。治療方法の選択、治療順序、治療にかかる期間なども考慮しなくてはなりません。各々計画が異なるので、隣席の友人と違う処置を行うことも多く、とても不安になりました。しかし、実習で大切なことは治療方法や順序が正しかったかではなく、どうしてその治療を選んだのかという根拠の検討を行うことでした。この総合模型実習を通して、同じ疾患に対しても異なるアプローチがあり、患者さんに合わせた治療を考える力を養うことができました。

ポリクリでは、各診療科を少人数のグループで回りました。これまで模型に対して行っていた実習を実際に学生同士で行うことで、緊張により手が震えたり、痛みを感じるなど初めて分かることがありました。ポリクリで気付いた痛みや歯科材料の味を今後患者さんに対しての説明と気配りに活かしたいと思います。

CBTやOSCEを乗り越え、ついに10月からは臨床実習が始まっています。先生からのご指導のもと、患者さんに治療をしています。このように実際に学生が治療に携わることのできる臨床実習は、全国に29ある歯学部の中でも数少ないと聞き、そのような貴重な経験をさせて頂けるというのは幸せなことだと思っています。新潟大学歯学総合病院において担当医の一人として自覚と責任感を持ち、学びのある1年にしたいです。そして、新潟大学での患者さんとの出会いを通じて、技術だけでなく信頼を得られる歯科医師になりたいです。

最後になりますが、臨床実習に協力してくださっている患者様、技術も知識もまだまだ未熟で力不足な私を温かく、時に厳しく指導して下さる先生方、話を聞いてくれるクラスの愉快的仲間たち、そして常に私を支えてくれている両親へこの場を借りて。いつもありがとうございます。



登院式にて54期のみみんなと撮影時マスクを外しました

# 歯学部一年生の様子

口腔生命福祉学科1年 丸山 さくら

歯学部学生の様子というテーマで、私達口腔生命福祉学科1年生の学校生活を紹介させていただきます。

1年生のうちには基本的に教養科目を履修しますが、前期には旭町キャンパスで早期臨床実習や歯学スタディスキルズといった、歯学に関する授業もありました。入学前にカリキュラムをみて、1年生のうちから実習をすることができることに期待や不安を抱えていました。ですが、いざ入学してみると、講義形式での診療科の紹介。正直病院内での実習ができないと聞いて残念ではありましたが、病院内はひっ迫した状態であることは理解していましたし、まだ医療従事者になるという心構えや知識が不十分な学生をそのような環境に送り込むことのリスクを鑑みると、このような判断も仕方ないなと思いました。そのような中で、私たちのために講義の準備をしてくださった各診療科の方々には感謝してもしきれません。次年度以降の病院内実習が一層楽しみになりました。また、授業内ではグループに分かれて専門診療科の必要性について、オンラインで議論し考察しました。自主調査を踏まえてグループで議論し、再調査を重ねていく作業は大変ではありましたが、回を重ねるにつれ自分たちの構想が形になっていくのが楽しかったです。最終的に発表の形に仕上げられたのはグループの皆さんのおかげですし、ほかのグループの発表を聞く中で、説明の構成やパワーポイントの作り方など、考え方はもちろん、

それ以外の部分でも学ぶ点が多くあり、今後の自分の学習生活に役立てていこうと刺激をもらいました。

後期からは対面の授業も増え、前期よりも友人と顔を合わせる機会が多くなりました。そうしたことを踏まえ、徐々に交友関係も広がり、本来の大学生活が戻ってきたように感じます。同じ講義を取っている人同士で意見を交わしたり、教え合ったりしていて、協調性も見られます。次年度からの学習は本格的に歯学に関するものになると思いますし、PBLも始まってきます。より一層の協調や助け合いが求められると思うので、良い学びができるよう頑張っていこうと意気込んでいます。

対面授業と非対面授業が混在しているからこそ融通が利かない部分もあり、大変な部分もありますが、入学してから現在まで、ほかの世代では経験できないことをやらせてもらっていると感じることが多かったです。常に新鮮な気持ちを味わうことができている。それは今の状況だからというのもそうですが、今後はもっと新鮮な気持ちで学習することができるのではないかと期待しています。初心を忘れず、主体性をもって学んでいきたいと思います。さらに今後は対面授業が主になってくるかと思っています。歯学部生との出会いに感謝し、交流を深め、充実した大学生活を送ることができるよう、楽しいこともつらいことも共有して、日々楽しんで生活していきたいと思っています。

# 歯学部学生の様子

口腔生命福祉学科 2年 山崎 陽菜

ついこの間入学したばかりとと思っていましたが、2年生も終わりが近づいてきていることに、時の流れの速さに驚きを感じつつ、毎日が充実していることを実感します。2年生になり変わったことは対面授業がほとんどを占め、PBLや校内実習が始まったことです。まずPBLが始まりました。私はグループ活動の時に自分の意見を発言したり、司会としてみんなの意見をまとめたりすることがあまり得意ではなかったため、始めはとても不安に感じていました。しかし、PBLを行ってみると、グループのみんなが意見をだし、とても発言しやすい雰囲気の中に行うことができました。1年生の時はZoomがほとんどで関わりがあまりなかった子達ともPBLを通して、仲良くなれとても良かったです。

後期からは校内実習が始まりました。入学してすぐ買ったユニフォームを初めて着て、スケーリング実習を行ったときは自分が歯科衛生士になるための勉強をしていることを改めて実感しました。実際に歯科医院で自分がされていた処置や見たことがあることを行うことは、わくわくします。デモの際に先生方が説明してくれた操作方法やコツなどから動かし方をイメージしている時はできそうな気がしていても、やってみると思ったよりも難しいことが多いです。また、模型を使って行うのと友達と相互で実習を行うのでは難しさが全然違うと感じました。相互実習では、ひとりひとり歯列の形や口の大きさも違うため、見

え方や感覚も異なりとても難しいです。また、痛みを感じる部分や力の加減が分からないため、鋭利な器具を使うときなどは不安に感じることも多いです。術者や補助者として実習を行っている際は、先生方がひとりひとりみて操作方法やコツを教えてください。高校までは、授業中に分からないことがあってもその場で聞くことは難しいと感じていました。しかし今は、手を置く位置や器具の向きなど分からないことがあっても、とても聞きやすい環境で、分からないことがあったまま実習が終わることがほとんどなくなりました。先生方は、うまくできるとほめてくれ、できていないところは指摘してくれるため、もっと頑張ろうという気持ちになります。入学前は、口腔生命福祉学科は他の学科よりも人数が少ないことに疑問に感じていました。しかし、20人という人数の学科だからこそ、実習中に先生が個人個人を見てくれる時間が長くなりとてもよかったなと思いました。また、少ない人数の学科だからこそ同じ学科の子たちみんなと仲良くなりやすく、いろんな子と話すことができ楽しい学校生活を送れていると感じています。

実習が始まり、歯科衛生士になるということに実感が湧きつつも、まだまだ不安を感じることもやうまくできないことが多くあり、3年生や4年生になり、病院実習で実際の患者さんに行う自信はありません。ですが、たくさん練習し、友達と教え合いながら頑張りたいなと思っています。

# 歯学部学生の様子

口腔生命福祉学科3年 小池 萌子

歯学部学生の様子というテーマのもと、恐縮ですが歯学部口腔生命福祉学科での私の学生生活について書かせていただきます。

口腔生命福祉学科の後期の学習では、臨床実習IIの授業の一環として病院実習があります。今までは基礎実習や相互実習で、マネキンやクラスの友人を相手に実習を行ってききましたが、病院実習では患者さんを相手に実習を行います。実習が始まる前は、実際に診療を見学することで学びをより一層深めることができるという期待と、患者さんの前で失敗できないという思いから緊張や不安がありました。しかし、口腔生命の4年生の先輩や病院で働く歯科衛生士や歯科医師の方々からたくさん助けていただきながら、見学に加えてバキューム操作や器具・器材の準備などの歯科衛生士の業務を実際に行い、充実した実習をさせていただいております。バキューム操作は相互実習で練習してきましたが、患者さんによって注意点が増えたり、工夫が必要であったりと、今までの練習だけでは不十分なこともあるため、試行錯誤しながら行っています。また、診療に使用する器具や器材は多くの種類があり、それぞれの用途や置き場所などを全て覚えることに苦戦しています。歯科衛生士の業務は大変だと感じることも多々ありますが、実際に患者さんとお会いし、診療の様子を見学、補助させていただくことは貴重な機会であり、とても勉強になります。

歯科衛生士の仕事は、歯科保健指導や診療補助ですが、声かけを行ったり、笑顔で接したりとコミュニケーションによって患者さんを安心させる

ことも大切な業務の1つであると考えます。知識や技術の面だけでなく、コミュニケーションの面でも病院の歯科衛生士の方々から日々学んでいます。患者さんに対して常に笑顔で優しく対応している歯科衛生士さんは患者さんだけでなく周りの人を安心させ、暖かい空気感をつくってくれる力があると思いました。病院実習を通して、歯科衛生士の業務に必要な知識や技術を身につけつつ、患者さんとの信頼関係の築き方なども学んでいきたいと考えています。

また、3年生からは福祉の学習もより本格的に始まりました。講義やPBLを通して、児童虐待や生活困窮者などの社会における多様な問題や高齢者や障がい者を支える支援などについて学んでいます。誰もがこの社会で自分らしい暮らしをすることができるように、日本には様々な制度や支援サービスが充実しています。そのような制度や支援の仕組み、背景を学ぶことに面白さを感じています。福祉の授業では、ときには深刻な問題や現実を目の当たりにすることもあり心を痛めますが、それらの問題から目を背けずに、しっかりと向き合い、一人でも多くの人の幸せのために何ができるか考えていきたいと思っています。

4年生からは病院実習の回数が増え、さらに1カ月間の社会福祉実習なども行います。残り約1年の学生生活の中で、クラスの仲間と共に多くのことを学び、歯科衛生士と社会福祉士のどちらでも活躍できるようなスキルを身につけたいと思います。